

第3回での意見のまとめ

「1.適切な栄養摂取による健康の保持増進」に関する論点

【現状・課題】

- 新潟市では体格等に合わせて、独自の栄養摂取基準を設定
- どの提供方式でも栄養摂取基準に基づいた給食を提供。しかし、提供方式により残食率の差が大きい
- 残食率の高いスクールランチについて、アンケート結果よりごはんの量・喫食時間・おかずの温度・味が残食の大きな要因とであると示唆
- スクールランチの利用率は60%程度。高学年ほど低い
- スクールランチはおいしそうや好き嫌いで献立を選択している。何も食べておらず栄養面で心配な生徒も
- 他の指定都市では選択式給食を全員喫食に見直す方向



【論点】

- 学校給食が適切な栄養摂取の役割を果たすにはどのような取組が必要か

第3回での意見まとめ

- 中長期的には、適切な栄養摂取の観点などから、以下の理由より全員給食とすることが望ましい
 - ・何も食べない生徒が生じることを防止
 - ・自らの健康のため、生徒が必要な量に調整しやすい
 - ・生徒自らが残食の片づけをすることにより食を考える機会を創出
 - ・同じものを食べることによる食育の効果が一層期待できる
 - ・食数の変動がなく、給食の安定的な提供・持続性の確保につながる
- 短期的には、以下の点を中心にスクールランチの改善を検討すべき
 - ・食べる時間を十分に確保すること
 - ・温かい食事ができること
 - ・自分の適切な量を考え、選べるようにすること
 - ・使いやすく、選択の余地が広い予約システムへの改修また、仕組みや必要性を生徒・保護者へ伝えていくべき
- 子どもが主体的に給食にかかわる機会を増やしていくべき
- 栄養教諭の配置を考慮すべき

検討に関する項目と論点

【1.適切な栄養摂取による健康の保持増進】

- ・ 学校給食が適切な栄養摂取の役割を果たすにはどのような取組が必要か。

【2.学校給食を活用した小学校から中学校まで切れ目のない食育】

- ・ 小学校から中学校まで切れ目のない食育を行うにはどのような取組が必要か。
- ・ 食べる意欲・食べる楽しみを根付かせ、食文化等への理解を深めていくにはどのような取組が必要か。
- ・ 生涯を通じた心身の健康を支える食育を行うにはどうすればよいか。

【3.地産地消を含む魅力ある給食提供】

- ・ 魅力ある給食とはどのようなものか。
- ・ 本市の魅力をいかした給食を子ども達に届けるにはどうすればよいか。

○「適切な栄養摂取」「切れ目のない食育」「地産地消を含む魅力ある学校給食の提供」を行うには、どのような学校給食がよいか。